

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774401232		
法人名	有限会社 ローズマリ		
事業所名	グループホーム みんなの家 (ドレミ)		
所在地	大阪府大阪市城東区諏訪2-8-4-604		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『みんなの家』はみんなの思いを大切にしてく自然に生活できる場所です。アットホームで皆が家族のように共に笑い時には喧嘩しつつも自己表現の大切さを知り対応しています。スタッフも心ある対応ができ勉強熱心な方も多く、悩みつつも邁進しています。ターミナルケアを実践しており、ドクター・ご家族様の協力の元、スタッフ一丸となって『生かされているのではなく、人として安らかに眠られるその日まで介護職として出来る力と家族としての愛情を持って寄り添う』対応しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kan=true&JigyosyoCd=2774401232-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年11月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時に創られた理念は地域に根付くみんなの家と謳い、事業では利用者や職員、廻りの方々も含む大きな家族と位置づけ、地域との関わりを大切に日々の支援に努めています。笑顔の生活を実現するために、職員は利用者のできることに注意を払い、食事作りではジャガイモをつぶしたり配膳や洗い物等で力を発揮できるよう支援しています。利用者は役割を果たす事で生活に張りが出て、まるで我が家のように生活を営まれています。毎日散歩や買い物等で外に出る機会を作り、地域の方々と挨拶が交わされ、団地の草むしりには利用者と共に参加したり、神社の祭りに出かける等、利用者の普通の生活への支援を行っています。職員は利用者の終の棲家として、看取りの支援について自然と受け入れており、研修や伝達研修等で学び、後悔の無い支援を目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勉強会や自己評価にて全ての職員が意識し実践している。	家族と同じ思いで利用者を支援し、地域で住み続けられるように、また、ホームはわが家であるとイメージした理念は、各フロアーに掲示し、日々意識しつつ利用者への支援に努めています。みんなで一緒に考える姿勢は、職員のみならず利用者の意見や思いを聞き共有する事から始められています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩にて交流を持つ事で気にかけてくださったり、声掛けして下さったりと交流があると思える	日々散歩に出掛け挨拶が交わされています。近くの団地の藤棚での集いでは近隣の方々とカラオケを楽しみ、時にはタオルの差し入れ等があります。団地の草むしりには利用者と共に参加したり、神社の祭りには利用者全員が浴衣掛けて出かけています。事業所のイベントには近所の方を誘うなど交流が図られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方など、家族様が認知症の為悩まれておられる時に相談のご連絡を頂き対応方法をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告が主になっているが、ご意見なども参考にしている	民生委員、地域のボランティアや家族の参加を得て、運営推進会議は2ヶ月に1度行われています。利用者と一緒に食事をして様子を見てもらったり、諏訪神社の祭り参加の際のボランティアを要請する等、様々な提案がなされ意見交換が行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方も生活されており現状報告などもしている。また社協の方とも連携をとっている。	区役所の窓口には、提出物を持参したり現状報告の機会があれば出かけています。市職員は、社会福祉協議会の主催する地域推進会議等に出席されており、事業所を知ってもらえる機会となっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠をはじめ拘束をしないケアをしている。また言葉の拘束など、何が拘束なのかも話し合っており勉強している。	事業所では身体拘束は行わない事を宣言し、玄関等に掲示しています。管理者は職員に否定的な言葉は使わない事を伝え、勉強会などで職員の理解を深めています。日中玄関は施錠せず、出かけた様子の利用者には気分転換を図るなど寄り添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待とは何かを勉強している。暴力・暴言のみでなく、声掛け・対応に至るまで配慮している。		

グループホーム みんなの家（ドレミ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状後見人の必要な方がいらっしやらない状態ではあるが、家族様で市民後見人として活躍されている方もおられ相談に乗って頂く事は可能である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される前に時間をかけ後でご不満の出ないように対応している。また入居後も疑問に思われたら随時傾聴しご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時お声掛けをし管理者が要望をお伺いしている。またスタッフには周知をかけている。	面会時や運営推進会議、行事時には家族から直接意見を聞くようにしています。衣類の着替えへの質問や、爪切りの要望等個別の依頼についてはすぐに対応したり、その場で解決方向で返答を行い、必要時には職員間で検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時傾聴し、悩まれていることを知るようにしている。また解決できるように導きをしている。	会議等でそれぞれの状況に応じて意見交換が行われています。主には利用者への支援に対する意見や質問などが多く、出された意見は介護計画に反映しています。年2回個別面談を行ったり、職員が悩んでいる様子を感じたら声かけを行って話を聞く等、働きやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	充分ではないが各スタッフの努力や実績なども把握に努め、声をかけるなどやりがいのある職場になるように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修にも力を入れている。また法人買いの研修に至っては書類を提供し希望者は参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークに参加し情報交換や訪問などして参考にしたり勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは安心できる場所としてお過ごしになれるように環境づくりは入居前より話し合いお迎えしている。入居後はなじみの関係をつくり、本心を打ち明けていただける人間関係が出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	連絡を管理者と密にとり報告・相談ができる関係を持っている。また、入居後1ヶ月経過状態を、写真入りのお便りを郵送している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHの為、他サービスは有料となり困難ではあるが、「その人」と「その時」を意識し一番必要なことを対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「みんなの家」として一番大切としていることなので築けていると感じている。また外部の方にも評価して下さっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加のレクを提案したり、面会時に外出の声掛けや、居室内でもゆっくり会話のできる環境を提供している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の方が訪ねてくださることはあるが、馴染みの場所に出かける事が減っている。家族様に要請の声掛けはしている。	利用者に友人の来訪があり、日ごろの事業所での様子を伝えるなど会話が弾むように支援しています。墓参りなどへの要望等があれば、家族に連絡を取り協力を得て出かけるなど、利用者の思いが実現できるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	友人関係が築けるよう各スタッフも対応している。口論となることもあるが一時的なもので孤立している方はいない。		

グループホーム みんなの家（ドレミ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHから退去され独居せれても、遊びに来られたり家族様から連絡を頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	レクや日々の会話の中から知るようになっている。会話の困難な方も、表情や状態・生活歴から理解して意向を知る努力をしている。	入居に当たって、家族から聞き取った情報を記録に残し、日々の支援の中から追記することで思いの把握に繋げています。困難な場合には、表情や日々の記録から意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様にセンター方式を記載して頂き把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録にて変化・思いを知り把握し全スタッフが共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて話し合い、「その人」の思い近づけるように対応している。	介護計画は本人や家族、職員の意見を基に作成しています。毎月モニタリングを行い、日々の実践の振り返りを職員間で行い、利用者毎に優先しなければならない課題を見つけ実践に繋げています。3ヶ月に一度計画は見直し、現状に即した計画になるよう支援に繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	心身状態・気づき・思い・ことばなど記録し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化や本氏の思いの変化など随時見直し検討している。		

グループホーム みんなの家（ドレミ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で暮らしているスタッフや地域の方の提案や情報にて出来ることを奉仕するように心かけている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を大切にしており、状態報告も書面または口頭で随時している。また、家族様の意向やGHの方針も伝えている。	入居時にかかりつけ医の継続が可能である事を伝え、家族の意向に沿って決めてもらっています。毎月協力医からの往診があり、管理者はクリニックまで出向いて相談や指示を得る事が出来ています。また、職員に看護師を配置し、日々の健康管理を行っています。また、必要時には歯科の往診もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は使用していないが職場の看護師、かかりつけ病院の看護師しに随時相談し助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	書面にて情報提供するとともに報告を受けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを行っている為、家族様には入居前よりどのようなケアを望まれているのか話し合っている。また必要になったときにも現状と方針・望まれる事など話し合っている。かかりつけ医にも意向を伝え対応して頂いている。ご本人の意向は何気ない会話にて思いを知るようにしている。	看取りの支援について職員は自然と受け入れており、研修や伝達研修等で学びながら、後悔の無い支援をしたいと職員は話し合っています。重度化の過程では医師や家族とも話し合い、日々の生活の中で、利用者や家族の思いを聞きとるようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や受講し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士の方の指導を受け対応できるように備えている。また地域の方とも相談している。	年2回避難訓練を行っています。事業所のあるマンション全体としてと事業所独自で訓練がなされています。昼夜を想定し、テーマを決めて訓練が行われ、運営推進会議では地域に協力を依頼しています。飲料水等の備蓄も備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切に対応している。馴染みな関係を築きつつも慣れ過ぎてしまわないよう適度な緊張感を持ち人生の先輩として対応できるように心がけている。	管理者は、利用者への接し方について馴れ馴れしくなり過ぎない事に留意しながらも、一人ひとりの声に耳を傾ける事を大切に支援するように職員に伝えていきます。職員間でも注意し合い、排泄時の声かけなどでは特に配慮するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表出しやすい環境を作っている。また日々の生活においても自己選択ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ペースを尊重しスタッフの都合にならないように気を付けつつ対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の服などをご自身で選んでいただくなど見守り・協力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食づくりも協力して頂ける環境になっている。包丁にて切って頂く事もしている。	食材が業者から届き、材料を前に利用者と一緒に相談しつつ献立を決めています。ポテトをつぶしたり、食器洗いなど、利用者の出来る事を見つけ共に作る事を大切にし、時にはおやつ作りも一緒に楽しんでいます。個別に出掛け外食で好きなものを食べれるよう家族に依頼するなどの支援もしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	単位計算をしつつ栄養の偏りがなくバランスよく摂取しやすい物を提供している。また刻み食もご極小刻み・とろみ食など応じて対応し見た目も良いようにしている。摂取量の記載もしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食口腔ケアの支援を提供し誤嚥性肺炎が起らないように気を付けている		

グループホーム みんなの家（ドレミ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力おむつの使用は避け、「その人」のタイミングを知りトイレ誘導をしている。立位の安定性のない方も下肢筋力低下を防ぐため立位体操なども日々支援し掴まり立ちができるように練習をしている	排泄チェック表などを利用しタイミングを計り、出来る限りトイレでの排泄支援を心がけています。下肢筋力を鍛えることも大切に、失敗があってもその方にとって心地良い選択を大切にして、布の下着を継続される利用者もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・食物・運動など取り入れつつ自然排泄ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある方には曜日を決めて入って頂く方が良い場合もあるが、出来るだけ希望に沿うようにしている。また足浴なども実施している。	出来るだけ利用者の好みに合わせて入浴支援をしており、朝から声かけをしたりタイミング良く聞く等して入ってもらっています。職員との一対一の語らいの場ともなり、楽しみとなっている利用者も居られ、拒否傾向の方には無理強いせず、時には清拭に変更する等柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時に寝具やベットなど使用されていたものを持参して頂き、落ち着ける場所となるようにしている。また照明などもここに依じて暗さを変えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	周知ノートに記録し変更があればすぐ解るように対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常に「その人」を念頭に入れ考えて対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩へ行きご希望のところへ行っている。また家族様にご連絡して旅行や生まれ故郷である土地にも行っていただいている。	ほとんどの利用者が、毎日散歩や買い物等で外に出かけられるように支援しています。ボランティアの援助を得ながら、初詣や花見、夏祭りなどに出かけています。近所の神社や公園などにも時々に出掛けています。	

グループホーム みんなの家（ドレミ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行った時にはご自身で支払いができるように支援している。理解もしている為希望者は所持されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日頃より文字が書けるようにメニュー書きなどされている。スタッフの協力のもと手紙を書かれている方もおられる。家族様からかかってくる電話にも出て会話を楽しまれておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のいい場所となるように考えている。また季節感のある壁画など皆さんにも協力して頂き作っている。	リビングは広い空間ではありませんが、利用者が日中を過ごす場所として、生活が楽しみ事になるように配置を工夫し、様々な居場所作りがなされています。温湿度にも留意し、季節の花を生けたり行事写真で思い出話をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを使用してゆっくり過ごされたり会話を楽しまれていたり自由に過ごせるスペースを設けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを入居時に持参頂いている。また入居後もご自身でつくられたものを飾られたり個性を生かした居室になっている。	使い慣れた筆筒や机などが置かれ、畳の生活をしている利用者がある等、好みを取り入れた居室作りがなされています。人形を飾って楽しんでいる利用者や、位牌、家族写真など思い出のあるものを置いています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来る」だろうけど「していない」ことをなくし今の力を活かしつつ生活できるように「その人」を把握し適度な刺激と安全な場所となるように支援している。		